



■取付け順序

■戸先錠ケースを先に取付けてください。

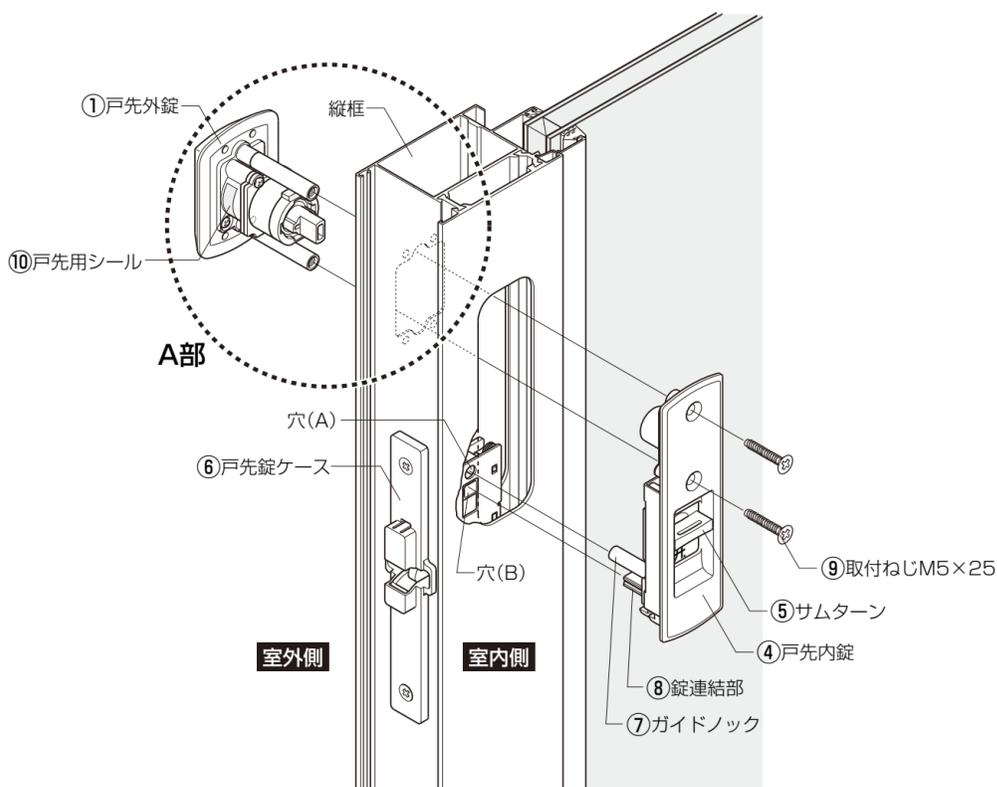
- 1) 縦框の切欠きに合わせて①戸先外錠を差込みます。
- 2) 室内側の切欠きから①戸先外錠を②取付けねじM4×8(4本)で取付けます。(A部詳細図参照)

●お願い

※①戸先外錠を取付けるときは、同梱の③取付け用パイプを使用して作業してください。③取付け用パイプを使用せずに①戸先外錠を取付けると、框内に②取付けねじが落下するおそれがあります。

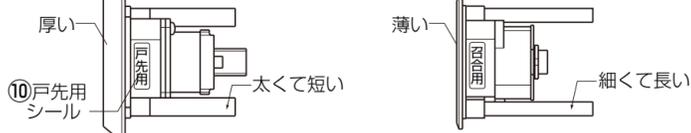
- 3) ④戸先内錠の⑤サムターンを上げて、⑥戸先錠ケースの穴(A)に⑦ガイドノックを挿入し、穴(B)に⑧錠連結部を差込み、室内側から⑨取付けねじM5×25(2本)で取付けます。

※戸先外錠は、召合せ外錠とは異なります。⑩戸先用シールで確認してください。



■戸先外錠

■召合せ外錠



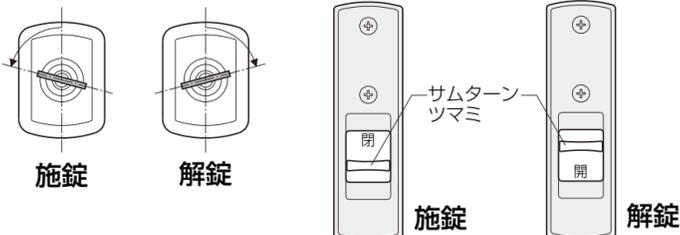
※戸先外錠にはシリンダー付きとシリンダーなしがありますが、外障子・内障子どちらの縦框にも取付け可能です。

※本錠は、安全装置付きのため、障子が閉まった状態でないと⑤サムターンの「開」「閉」操作はできません。

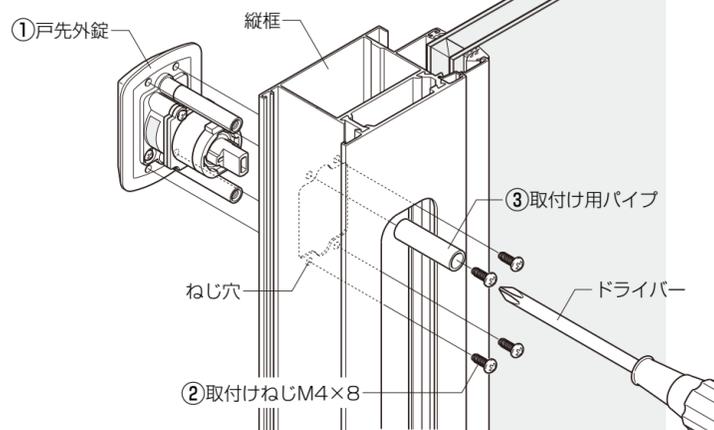
■施解錠操作方法

●室外(キー操作)

●室内(サムターンつまみ操作)



■A部詳細図



■ストライクの調整方法

1 上方向の調整

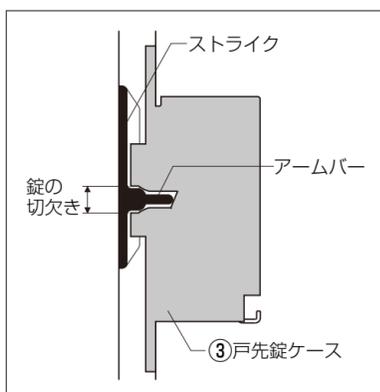
●引手錠がかかりにくい場合やラッチがかかりにくい場合は、ストライク取付けねじを上下2箇所と裏板取付けねじ2箇所の計4箇所をゆるめ、ストライクを上調整してください。

(調整幅：上方向5mm)

●調整後、すべてのねじを元通りに締めてください。  
※障子を少し開けた状態でアームバーが錠の切欠きの中心にくるように調整してください。

●お願い

※裏板取付けねじを緩めすぎないでください。裏板取付けねじを緩めすぎると裏板が脱落し、ストライクが取付けられなくなるおそれがあります。



2 出方向の調整

●上方向の調整をしても、錠がかかりにくい場合やラッチがかかりにくい、又はラッチ解除がかたい場合は、ストライク取付けねじを上下2箇所ともゆるめ、錠受けスペーサー(枠に同梱)の裏表を確認して枠とストライクの間に入ってください。(調整量：1枚で約1mm)

※1つのストライクにつき最高で4枚まで入りますが、できるだけ少なくしてください。入れすぎると気密材が当たらなくなり、気密性能の低下やストライクの破損、又は召合せ錠がかからなくなったりするおそれがあります。

